

第5章 郷土の開発・文化の発展



安芸高田には郷土の開発に尽くした人やふるさとに名を残した先人たちがいます。その功績^{こうせき}について学びましょう。



1 郷土の開発・文化の発展

安芸高田には、郷土のために尽くした人たちがや安芸高田に生まれ名を残した先人たちがいます。歴史の中に刻まれた先人の成し遂げた働きや成果を調べてみよう。



(1) 「土師に水路を拓く」咽声 忠左衛門 (八千代町)

八千代町に伝わる言い伝えです。

江戸時代、八千代町上・中土師地区は川が土地よりも低いところを流れていたため、田畑に利用できませんでした。このため、水不足で米もできず、人々は大変困っていました。

中土師に住む忠左衛門は、貧困を救うため「江の川」の水を引くことを思い立ち、熱心に村人を説得し、1662年より用水路の工事に取りかかりましたが、なかなかうまくいきませんでした。手伝っていた村人も見切りをつけ、自分の田を売ってまで工事を続ける忠左衛門をだれも相手にしなくなりました。

さらに時の代官からは、「人心を惑わす不届き者」としてとらえられ、手かせ、足かせの他、首かせまで科せられました。その後、足かせは許されたものの、首かせをつけたままでも、忠左衛門は意志をまげず、たった一人でノミとツチをもって工事を止めませんでした。



農民の忠左衛門には設計も測量の知識もなく、ましてや現在のよう
に機械もない時代に、あきらめずに400メートルもある絶壁の「鼻ぐ
り岩」に立ち向かいました。山に登って霧を観察したり、夜にたいま
つをつけて土地の高低を調べたりして工事を続けました。二度目の夏
をおかえるころには、首かせや汗、けずる石の粉などで首がすり切れ、
咽がつぶれてしまいました。そのため、村人は「咽声忠左衛門」と呼
ぶようになりました。

工事を始めて3年、最後にはとなり村の庄屋からの手助けもあり、
命をかけた難工事は1665年完成しました。長さ6キロメートル、幅
1.8メートル、深さ0.75メートルの用水路に水が流れ、50ヘクタ
ルの水田を潤すことができました。近隣の村は干ばつで米の収穫がな
い年も、中土師の村では豊作が続きました。

村人は今までの仕打ちを恥じ、改めて恩人として忠左衛門を尊敬
し、その功績をたたえて石碑をつくりました。350年以上たった今も、
土師地区の恩人として「咽声神社」に奉られています。

また、1994年土師ダムの公園を整備する際にも、忠左衛門の遺徳を
しのび、公園の名称を「土師のどごえ公園」と命名しました。



のどごえ
咽声神社 (編集委員撮影)



はじ
土師のどごえ公園 (編集委員撮影)

かつての安芸高田市では、人々のくらしを守るためにたく
さんの人々が力をつくしました。その思いは今でも大切にさ
れているんだね。



(2) 「へら堀りの池」(吉田町)

吉田町新町うらに、「へら堀りの池」のあとがあり、その場所に記念碑がたっています。

江戸時代、この地域には年々災害が起き、農民や町人は苦しんでいました。そこで、当時、豊かな商人であった竹野屋河野与三郎が人々を救うために立ち上がりました。庭に*泉水を作ろうというのです。道具は竹べらと直径20 cmくらいのザル。竹べらで掘り、ザルに土を入れて運ぶのです。この小さなザルを人々は「七文テンギリ」と呼びました。それはこのザルに一杯土を運ぶと七文というお金になったからだということです。飢饉の間、人々はここで働き、お金を得ることで救われることになりました。 ※泉水…泉の水、または庭園に造った池



「へらほりの池」版画 江戸期 (安芸高田市歴史民俗博物館提供)

また、「だんじり屋台」を吉田ではじめたのも、河野与三郎の功績であったといわれています。この「だんじり屋台」は、現在まで吉田で行われる5月5日の市入り祭として伝承されています。

米づくりが中心だった昔の生活では水を確保することが重要な問題でした。大切な水を確保するために力をつくした人々について調べましょう。



(3) 「尾原かづきと論山堤」(向原町)

大土山の西のふもとの山あい
に「小反田池」という広い沼地
がありました。

300年ほど昔、この付近の芝
草刈りや、米作りに使う水源の
取り合いで上小原村（現甲田）
と坂村（現向原）との間でしば
しば論争がありました。それで
この地域を「論山」と呼んでい
ます。坂村にはこの水源がどう
しても欲しい理由がありまし

た。坂村の尾原地区は川から離れたところにあり、毎年水不足による
不作が続きました。そのため村全体で尾原地区の*年貢をかたがわり
する状態でした。これを「尾原かづき」といいます。そこで、1713
年、坂村庄屋・喜久武右衛門が「小反田池」を何十倍にも広げて広さ
2.6haの「論山堤」を築きました。そして、堤から流れる水を尾原地区
まで送るために、難工事のすえ、約3kmの新溝（水路）を完成させ
ました。さらにその水を尾原で受けるための池を掘りました。これが
「尾原池」です。これによって尾原地区の水不足は救われ、「尾原か
づき」の状態は解消されたのです。

「尾原池」の中島にある墓は、一大事業をなしとげた庄屋のものと
伝わっています。



現在の「論山堤」(編集委員撮影)



現在の「尾原池」(編集委員撮影)



尾原池中島にある墓
(編集委員撮影)

※年貢…明治時代まで続いた税の一つ。お金ではなく米で納めたため、「年貢米」とも呼ばれる。

2 文化の発展につくした人々

(1) 土生玄碩 ～日本初の開眼手術を行った眼科医～

【1762～1848 吉田町】

江戸時代後期、安芸国高田郡吉田村の眼科医の長男として生まれました。眼科としての技術や知識を得るため、京都で漢方医学を学び、そこで、腑わけに参加し、眼球の仕組みを知るため、日本で初めて眼球の解剖をおこないました。

さらに眼科医学向上をめざし、江戸の蘭学医杉田玄白のもとでオランダ医学を学びました。

1803年、広島藩の藩医に取り立てられ、江戸で藩主の娘の眼病を完治させ、名声が広まりました。さらに1810年（江戸後期）には、徳川将軍の侍医に抜擢されました。

オランダ医師シーボルトが来日した際には、多くの人の病気を治すため、あえて法をやぶり、徳川家の葵の紋服を与えて、眼科手術に必要な薬についての知識を得、投獄されたこともありました。

このように、玄碩はたゆまぬ努力をし、多くの人の治療を行いました。こうして、我が国の白内障手術は一段の進歩をとげました。

また、土生玄碩がモデルとなった舞台や映画「男の花道」もつくられています。



土生玄碩

安芸高田市歴史民俗博物館提供



土生玄碩生家（吉田町）



土生玄碩碑（吉田町）

(2) ^{いしばしまさくに}石橋正国 ^{とうしょう}～刀匠として生きる～【1831～1896 美土里町】

石橋家は、^{いわみ}石見の^{いちき}国市木（島根^{おおなん}県^{おおなん}邑南町）から安芸の^{がた}国山^{いしばしまさなが}県郡へ^{そせん}移り住んだ石橋正長を祖先とする^{とうしょうか}刀匠家です。

正長の子ども^{まさつな}正綱が1823年高田郡北村（現在の安芸高田市美土里町北）に移り住みました。

正綱の長男^{まさくに}正国と二代にわたり^{とうしょう}刀匠として活躍しました。

明治になって刀を身につけることが禁止され、^{まさくに}正国は長男とともに農具を作る仕事にたずさわりました。石橋家の^{かま}鎌は「^{くろたきかま}黒滝鎌」として評判となり、遠く九州・四国まで広く鎌が売れたといえます。

また、^{ひろしまはん}広島藩の^{ごよう}御用鍛冶であった^{いしばしまさみつ}石橋正光（正国のおじ）が持っていた文書を^{まさくに}正国が書き写したものをはじめ、石橋家が^{かじ}代々の鍛冶を仕事として引きついできた^{いちれん}一連の^{しりょう}資料を伝えています。

この資料は、江戸末期の^{とうこう}刀工のようすを今に伝える^{きちょう}貴重な資料として高く評価されています。

下の刀の写真は、^{いしばしまさくに}石橋正国の作品です。



石橋 正国（石橋家肖像図）
安芸高田市歴史民俗博物館提供



表銘「^{いしばしまさくに}石橋正国」



^{けいおう}慶応元年作の刀（^{かたな}個人蔵）

(3) 三上義夫～「和算」を世界へ紹介した数学史家～

【1875～1950 甲田町】

明治8(1875)年に甲立村(現甲田町)の三上助左衛門の二男として誕生しました。中学校を卒業後仙台第二高等学校に入学しましたが目の病気になるため、退学しました。その後、東京で和算史の研究をはじめ、英文で日本と中国の数学史を発表。「世界的数学史家」への大きな一歩となりました。また、全国をまわり、江戸時代の和算家について調査しました。大正10(1921)年に発表した「文化史上より見たる日本の数学」は大きな反響を呼び、昭和4(1924)年には、東洋人で初めて国際科学史委員会の通信会員に選ばれました。著書、発表論文は200点以上。戦後は、甲立に帰り、理窓院(寺院)の一室で生活を送りました。昭和24(1949)年「関孝和の業績と京阪の算家、ならびにシナ算法との関係比較」と題した論文で東北大学から理学博士の称号が贈られました。昭和33(1958)年11月、76才でこの世を去りました。昭和32(1957)年甲立中学校(現在は甲立小学校)に功績をたたえ、顕彰碑が建てられています。



三上 義夫



顕彰碑 (編集委員撮影)

甲立小学校のグラウンドに建てられています。



(4) ^{わだかせつじ} 和高節二 ～野に生きた画家～【1898～1990 向原町】

明治 31 (1898) 年，広島県高田郡長田村 (現・向原町長田) に生まれました。初めは洋画を勉強し，^{じがぞう} 自画像や^{ふうけいが} パステルの風景画などを雑誌の懸賞に応募して入賞することもありました。絵を描き始めたころは肖像画家になりたいという気持ちもありましたが，^{じがくじしゅう} 自学自習しているうちに^{しぼう} 日本画志望になりました。



和高 節二

昭和 4 (1929) 年，^{さい} 31歳の時に第 10 回帝展^{ていてん} に初入選し，その後，帝展，^{ぶんてん} 文展，^{にってん} 日展に合わせて 8 回入選しました。昭和 15 (1940) 年には，^{きげん} 紀元 2600 年奉祝日本画展で^{ほうしゅくにほんがてん} 最高賞の^{さいこうしょう} 文部大臣賞を受賞し，全国から大変な注目を浴びました。

作品は，家族をはじめとする村の人々，^{ねこ} 牛，^{かき} 猫，^{さんそん} 柿など，身近な山村の風物をテーマにしたものが多く，中でも牛は「牛の和高」と言われるほど^{しゅよう} 主要なテーマになっています。^{のうか} 農家の生まれである和高にとって，牛は農家の宝であるという思いがあり，それが牛をテーマにした作品の多さにつながっています。



^{こつと} 牝牛 縮図掛軸作品 (個人蔵)



平和の里 (徳栄寺蔵)

(5) ^{こだまきぼう}児玉希望 ^{すいぼく ひょうげん}～水墨の表現を追い求めた画家～

【1898～1971 高宮町】



児玉希望

明治31(1898)年、^{くるほら ほらだ}広島県高田郡来原村原田(現・高宮町原田)に生まれました。本名は^{しょうぞう}「省三」といいます。^{ほらだじんじょうしょうがっこう}原田尋常小学校(現・^{よしだじんじょうこうとうしょうがっこう}来原小学校)、^{だいようきょういん}吉田尋常高等小学校を経て、^{ひとはた}代用教員となりましたが、一旗あげようと思
い上京しました。

大正7(1918)年、^{さい}20歳の時に^{かわいぎよくどう}川合玉堂に^{でし}弟子入りし、^{ほんかくてき}本格的に画家としての道を歩み
始めました。大正10(1921)年、「夏の山」^{ていてん}で帝展に^{はつにゆうせん}初入選し、その後、^{ていてん}帝展で2度の

^{とくせん}特選を受賞して、^{じゅしやう}日本を代表する画家になりました。
た。弟子には、^{みよし}三次出身の日本を代表する画家で
ある^{おくだげんそう}奥田元宋がいます。

昭和32(1957)年から丸一年、イタリアを中心
に^{たいざい}ヨーロッパに滞在し、^{せいようびじゅつ}西洋美術の伝統を^{でんとう}肌で感
じながら、^{さいかくにん}日本画の進むべき方向性を再確認しま
した。それは、^{ばんねん}晩年まで続く^{すいぼくひょうげん}水墨表現のさまざま
^{こころ}な試みです。

来原小学校には、^{こだまきぼう}児玉希望の^{こうせき}功績をたたえて
^{きねんひ}記念碑がたてられています。



武者図(簾八幡神社)



鷺

わかったかな？安芸高田の^{ほこ}誇れる人々クイズ

Q 1 へら堀りの池をつくるために使った道具で直径約20cmのザルを何という？

- A 六文テンザル
- B 七文テンザル
- C 八文テンザル

Q 2 ^{ねんぐ}年貢を出せない尾原地区の^{ねんぐ}年貢を坂村全体でかたがわりした状態を何という？

- A 論山かつぎ
- B 尾原つつみ
- C 尾原かづき

Q 3 次のうち、実在しないものはどれ？

- A のどごえ岩
- B のどごえ神社
- C のどごえ公園

Q 4 土生玄碩が医学を学んだ江戸の蘭学医・杉田玄白らがほん訳した「解体新書」のオランダ語の原題は何？

- A サータイヘン・アナトミア
- B ターヘル・アナトミア
- C アキタカタ・アナトミア

Q 5 三上義夫の論文に登場する江戸時代の数学者はだれ？

- A ^{せき たかかず}関 孝和
- B ^{ひらが げんない}平賀 源内
- C ^{はなおか せいしゅう}華岡 青洲

Q 6 刀匠 ^{まさくに}石橋正国の住んでいた美土里町の地区はどこ？

- A 南村
- B 北村
- C 東村

Q 7 野に生きた画家と言われる和高節二は、ある動物をテーマにした作品が多いが、その動物は何？

- A うさぎ
- B くま
- C うし

Q 10 日本を代表する児玉希望の^{こうせき}功績をたたえて記念碑^ひが建てられている学校はどこ？

- A 美土里小学校
- B 高宮中学校
- C 来原小学校

みんなわかったかな？お家の人にも教えてあげてね。また、安芸高田市内を^{めぐ}巡って記念碑^ひなどを見てみよう！！

